

番号	委員からの意見・質問の内容	回答
1	令和2年度はこれまで増加を続けていたいじめの認知件数が全国的にも減少に転じ、徳島県でも同様に減少している。これは新型コロナウイルスの影響で休校が増え、部活や課外活動など学校内での活動が減ったことと関連があるかもしれない。 また、徳島県ではいじめ防止に向けた数々の取り組みが行われているが、これらが徐々に浸透し多く利用されるようになっていくこともいじめ認知件数の減少や重大事象が起きていないことに役立っていると思われる。	本年度は、「徳島県いじめ問題子どもサミット」をオンラインで12月に初開催しました。県内13小・中学校の児童生徒50名が参加し、「ネット（SNS）によるいじめ問題にどう立ち向かうのか」をテーマに、各校の取組発表や意見交流等を行ったところです。 今後も児童生徒の主体的な取組である「いじめ防止子ども委員会」の活動を充実させるとともに、家庭や地域にその成果を発信する等、いじめ防止に向けた取組を推進して参りたいと考えております。
2	令和2年度のいじめの認知件数が、全国と同様に徳島県も低下しているが、その原因分析あるいは推測がなされているのであれば、お教え頂きたい。	新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休業の長期化等による様々な活動制限や、感染拡大の影響による偏見や差別が起きないように学校において正しい知識や理解を促したこと等が背景にあると考えられます。 また、コロナ禍による生活環境や行動様式が大きく変化し、発見できていないいじめがある可能性にも考慮し、引き続き初期段階のいじめも含め積極的な認知を行い、アンケート調査等、本人から訴えやすい環境づくりに努めていくことが必要と考えております。